

子持権現山

高知県と愛媛県境の稜線上、施ヶ森の南に、忽然と突き出した異様な岩峰が立ち上がっている。

山名の由来は「その形が子供を背負っているように見えることから命名された」と角川日本地名大辞典にある。

また、「子供を負ひたる滝」と伝えられると高知県の山にも紹介されている。(滝とは岩場岩壁と「タキ」と読む)円錐状の山のまわりは切り立った断崖の岩壁に囲まれ、遠くからも近くからも、その自かに圧倒される。

登山口

国道施ヶ森線

サリの中の細道

断崖絶壁

古代の石鎚山は施ヶ森、子持権現山が信仰の中心で、下とある説がある。これは石鎚山と施ヶ森の東西2つの霊域と想定する説がある。

子持権現分神

「土」屋への看板がある

石土山子持権現分神様

施ヶ森のサ山、男山、子持権現山の三山を合わせて石土山と呼んでいた時代もあった。

鎖場

巻道

滑り落ちたら大事故
レッキツ

子持権現山

立入禁止

子持大権現様

岩屋

大きな岩屋に祀られている子持権現様は修験道の総本山である金峰山寺に連なる由緒ある権現様といわれる。

足場はほぼない

手を離したら落ちる
落ちたら大変

信者の名前が刻まれている

いったいこの山がどうやってこの鎖をつなげたのか

途中に切れかかっている鎖も...

垂直

最大傾斜角は60°

山荘しらさ

子持権現山と伊吹山の鞍部に広がるササ原に赤い屋根の山荘しらさが建ち、山を訪れる人々の安らぎと憩いの場として愛されている。

雲にも手が届きそう

山頂からは南～東が大どく開け、施ヶ森から東へつながる四国山地～南に深い白猪谷～シラサ峠など雄大な展望を得ることができる。

しらさ峠

山名の由来はササの枯れた状態を「白笹(しらさぎ)」と呼ぶことからシラサ峠と名付けられたと「工佐の峠風土記」で考察されている。この町本川の寺川から白猪谷を經由して峠に至り、西条の西之川へ通じている。昭和初期には越前門や寺川の堰が西之川へパーマネントにかかるために往復していたというエピソードも伝えられている。